

ごはん・お米とわたし

A child in a blue jacket and green pants holds a tray of soil, standing in front of a large pile of soil. In the background, another child in a yellow jacket and black hat walks away.

A painting of a large wooden water wheel in the foreground, partially obscured by tall green grass. The wheel is positioned in a vibrant green field with horizontal bands of red and yellow. In the background, a dense forest of green trees covers a hillside under a blue sky with white clouds. A white path or stream crosses the field from the right side.

令和4年2月
山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部

米の研究をこまして感じたこと	五年	茂木	耀義
米沢市立南原小学校			
ぼくは、米の水の吸い方の自由研究をしました。それを選人だあけは、三年生の時に同じ研究をして、三時間と十時間の米の重さかへ、たので、必ずそうなるのが調べたいと思っただからです。また、品種や作っている農家がちがうと、どう変わるのかも知りたいて思いました。			
調べ方は、米の浸水時間を十三種類に分けて、それぞれ重さを量りました。一番長いもので十二時間です。米の品種は、前回の実験の時に使用した、置賜のゴシキカリに加え、山形あまきライスファームと石田農園の雪若丸とつや姫も調べました。			
ぼくは、この研究をして、米が水を吸う量には限界があるのではないかと考えました。丹ぜそう思、たがていうと、品種や農家がちがっても、重さが増えたり減ったりをくり返していたからです。増えた時は水ゼい、ばい			

「米の研究を
とおして感じたこと」
米沢市立南原小学校5年
茂木 耀義 さん

に吸、ていて、減、たときは限界が来たから
出してゐるのだと思ひました。
それから、米が急げきに水を吸う時間の長
さが、品種によつてちがつてゐるのだから、
次に、ゴシヒカリの金や尻でをしめた。
始めは、浸水させたの欠以外の十二種類の米
を、それぞれチャック付きの保存袋に入れて
それを煮、とうした。湯の中に入れてとり
やうで米をたきました。

金や尻での結果は、たぐ時の水の量も少な
かたのが、三十合までは、米のかたの部分
が残、ていました。反対に、浸水させ過ぎた
米は水、ぼくぼく、ていまい、三時間浸水させ
た米は、甘みを感じました。もうかしらう、
米が水をはき出す時に、米のうまみも出て
まうから、浸水時間が長くはなり過ぎると、甘
みがなく、水、ぼくぼく飯にやるのが丹て田
ました。

す。きの方法でたいた米は、米でうしく。

ついで、上手にたけなかつたので、ミニ土鍋
で、浸水時間が四十五分、二時間、三時間
の米だけたいてみました。二時間は甘みがあ
って、モチモチしていて、ふくらみもあまり
一番太りしかつたです。三時間は甘さが逃げ
て、少し水っぽく感じました。

ぼくは、この研究を通して、浸水時間が米
のたきあがり、ご飯の甘みなどに大きくえりき
ょうすることが分かりました。農家さんが、
一生けん命がんばっておいしい米を作って
くれて、食べるぼくたちが、その米の情報を
理解していただく。たり、たまに失敗したり
すると、おいしいで飯に炊いたらいいとおぼ
えます。

ぼくは自らが飯が大好きです。食べ比べで
あまりおいしくないので飯を食った時、かち
りしたし、もちたけいでも思いました。ぼ
くは、土鍋でのご飯をたけるようにしたいの
で、時々、その米にあつた浸水時間で、おい
しいご飯をたいて食べたいと思います。



みんなの
よい食
プロジェクト





◆ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会代表理事会長 折原 敬 一 1

◆第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール入賞一覧 2

◆図画部門

図画1部／山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 3

図画2部／山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 4

図画3部／山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 5

◆作文部門

文部科学大臣賞 6

作文1部／山形県知事賞 7
山形県農業協同組合中央会会長賞 8

作文2部／山形県知事賞 9
山形県農業協同組合中央会会長賞 10

作文3部／山形県知事賞 12
山形県農業協同組合中央会会長賞 14

◆審査講評

作文部門審査講評 山形市立金井小学校校長 佐藤 昌彦 16

図画部門審査講評 大江町立左沢小学校校長 建部 敦 17

◆第34回～第46回 入賞一覧 18

◆審査経過の概要 20

◆募集要領 21



「ごはん」

第四六回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さん、とても素晴らしい作品をありがとうございます。心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たちJAグループは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を育んできた稲作農業「ごはん食と健康の結びつき」を見直してもらうため、昭和五一年度からこのコンクールを実施しており、今年度で四六回目を迎えます。

今回は、県内の小・中学校から作文二・四四四点、図画六五七点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいては、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。

全国コンクールにおいては、作文部門二部で文部科学大臣賞、同部門二部と三部で優秀賞、図画部門一部と三部で優秀賞を受賞する成績を収めました。これは入賞された皆さんのご努力はもちろんのこと、指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査委員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜物と心から感謝申し上げます。

今回応募いただいた作品は、田植えや収穫作業、ごはんをおいしそうに頬張る様子などをいきいきと表現したものや、ごはんを通じた家族との温かいつながり、お米やふるさとの素晴らしい価値などを豊かに表現したものなど、心に響く作品ばかりでした。ごはん食や農業の果たす役割の大きさ、ありがたさが素直に表現されており、日本人の生活とお米は、深く結びついていると改めて実感させられました。

どうか皆さん、普段何気なくごはんを食べることが出来る幸せを忘れないでください。また、お米をはじめとした農畜産物を作る農家の苦

山形県農業協同組合中央会

代表理事会長 折原 敬 一

労や努力を感じ、感謝の気持ちを大切にしてください。そして、自然や生き物すべての命を大切にすることを、いつまでも持ち続けてください。

現在、日本は、世界中の国々と貿易を行い、食料の多くを外国から輸入しています。皆さんは、わたしたちが毎日食べている食べ物が、どこで作られたものなのか知っていますか。食べ物全体のうち、どのくらい日本国内でつくっているかを示す食料自給率は三七％であり、先進国の中では最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなることが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが大事なことだと考えています。

私たちJAグループは、地元産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大や皆さんの安全な食生活の確保に向けて、日本人の主食である「ごはん」を中心とした日本型食生活の推進、学校給食における安全・安心な農畜産物の提供、「食」と「農」の大切さを伝える食農教育の推進、国民が必要として消費する食料は、できるだけ国内で生産する「国産国産」の国民的理解促進に向けた取り組みに「層努力してまいります。そして、農業者や地域の皆様にとつて「なくてはならないJA」となるよう、引き続き様々な取り組みを進めてまいりますので、これからも「理解・ご協力をお願いいたします」。

さて、本県産「つや姫」は、平成二二年のデビュー以来、多くの方々から「好評をいただき、皆さんにとつても馴染みのお米となったこと」と思います。また、平成三十年秋に本格デビューした「雪若丸」も、「つや姫」に負けず劣らず「好評をいただいております。本県では、「つや姫」や「雪若丸」のほかにも、「はえぬぎ」などのおいしいお米をたくさんつくっています。私たちは、これからも安全・安心でおいしいお米を皆さんにお届けしてまいりますので、応援をよろしく願いたします。

最後に、当コンクールをますます発展させていただきますよう皆様からのご協力をお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



南陽市立荻小学校二年
殿岡 直橙



川西町立吉島小学校三年
高梨 倅芽

●全国優秀賞／山形県知事賞●

「がんばった なえばこはこび」

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「おいしいお米になりますように」

第46回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○文部科学大臣賞 (作文 2 部)	茂木 耀義	米沢市立南原小学校	5年				
○全国優秀賞 (作文 2 部)	齋藤 優空	三川町立押切小学校	6年	(図画 1 部)	殿岡 直橙	南陽市立荻小学校	2年
(作文 3 部)	有賀 咲星	鶴岡市立朝日中学校	1年	(図画 3 部)	井田 大成	山形市立第五中学校	1年

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1～3年)				
山形県知事賞	添川 夢叶	高島町立和田小学校	3年	
山形県農協中央会会長賞	佐藤 来彌	真室川町立真室川北部小学校	1年	
優秀賞	土屋 晴路	山形大学附属小学校	1年	
	松浦 李那	山形大学附属小学校	1年	
	佐藤 衣鞠	三川町立東郷小学校	1年	
	佐藤 風	鶴岡市立朝陽第四小学校	2年	
	高橋 陽	真室川町立真室川小学校	3年	
●2部 (小4～6年)				
山形県知事賞	齋藤 優空	三川町立押切小学校	6年	
山形県農協中央会会長賞	鈴木亜悠睦	鶴岡市立京田小学校	6年	
優秀賞	中嶋 尊帆	最上町立大堀小学校	4年	
	田村 理音	米沢市立北部小学校	4年	
	渡辺 琉生	最上町立向町小学校	6年	
	宮澤 桃季	米沢市立南原小学校	6年	
	我妻 尚哉	高島町立和田小学校	6年	

●3部 (中1～3年)				
山形県知事賞	有賀 咲星	鶴岡市立朝日中学校	1年	
山形県農協中央会会長賞	林谷さくら	山形市立第二中学校	1年	
優秀賞	寒河江万葉	南陽市立沖郷中学校	1年	
	鈴木 崇仁	米沢市立第二中学校	2年	
	鈴木百々花	米沢市立第二中学校	2年	
	石川 和翔	米沢市立第二中学校	3年	
	菅原 紗希	白鷹町立白鷹中学校	3年	

●学校奨励賞

高島町立和田小学校
鶴岡市立朝日中学校

図画部門

●1部 (小1～3年)				
山形県知事賞	殿岡 直橙	南陽市立荻小学校	2年	
山形県農協中央会会長賞	高梨 倅芽	川西町立吉島小学校	3年	
優秀賞	庄司 圭吾	尾花沢市立福原小学校	1年	
	畠腹 啓翔	新庄市立萩野学園	1年	
	五十嵐友築	尾花沢市立常盤小学校	2年	
	松田 彩那	庄内町立余目第一小学校	2年	
	齋藤 一花	山形市立大郷小学校	3年	
●2部 (小4～6年)				
山形県知事賞	柴田 鉄汰	尾花沢市立宮沢小学校	5年	
山形県農協中央会会長賞	笹生 大河	山形大学附属小学校	6年	
優秀賞	荒木 怜人	村山市立楯岡小学校	4年	
	落合 絢音	尾花沢市立常盤小学校	4年	
	佐藤 珠々	山形大学附属小学校	5年	
	阿部 桜貴	高島町立糠野目小学校	5年	
	木村 佳恵	山形市立東小学校	6年	

●3部 (中1～3年)				
山形県知事賞	井田 大成	山形市立第五中学校	1年	
山形県農協中央会会長賞	川合 海音	山形市立第五中学校	1年	
優秀賞	後藤 大駕	米沢市立第二中学校	1年	
	漆山 陽向	山形市立第五中学校	2年	
	鈴木 大虎	飯豊町立飯豊中学校	2年	
	佐藤 暖	天童市立第三中学校	3年	
	伊藤 美緒	鶴岡市立櫛引中学校	3年	

●学校奨励賞

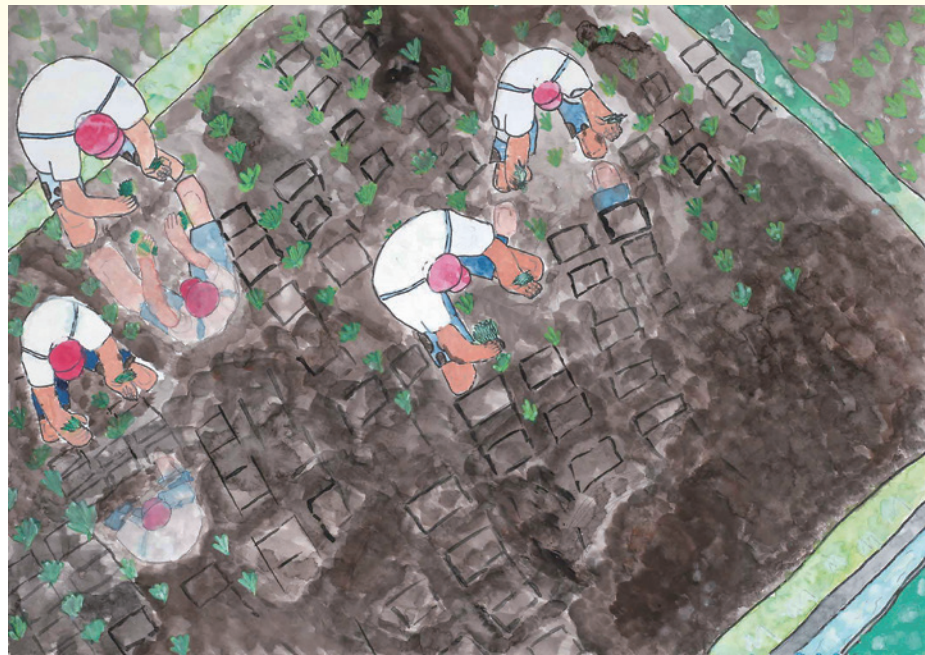
山形大学附属小学校
山形市立第五中学校

●山形県知事賞●

「苗を1本ずつていねいに！」

尾花沢市立宮沢小学校五年

柴田 鉄汰



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「お米とわたし」

山形大学附属小学校六年

笹生 大河



●全国優秀賞／山形県知事賞●

「山形、古き良き田園」

山形市立第五中学校一年

井田 大成



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「笑顔あふれる秋の食卓」

山形市立第五中学校一年

川合 海音



米の研究をとおして感じたこと

米沢市立南原小学校五年

茂木 耀義

ぼくは、米の水の吸い方の自由研究をしました。それを選んだわけは、三年生の時に同じ研究をして、三時間と十時間の米の重さがへったので、必ずそうなるのか調べたいと思ったからです。また、品種や作っている農家がちがうと、どう変わるのかも知りたいと思いました。

調べ方は、米の浸水時間を十三種類に分けて、それぞれの重さを量りました。一番長いもので十二時間です。米の品種は、前回の実験の時に使用した、置賜のコシヒカリに加えて、山形あおきライスファームと石田農園の雪若丸とつや姫も調べました。

ぼくは、この研究をして、米が水を吸う量には限界があるのではないかと考えました。なぜそう思ったかというと、品種や農家がちがっても、重さが増えたり減ったりをくり返していたからです。増えた時は水をいっぱい吸っていて、減ったときは限界が来たから出しているのだと思いました。

それから、米が急げきに水を吸う時間の長さが、品種によってちがうことが分かりました。

次に、コシヒカリの食べ比べをしました。始めは、浸水させた

0分以外の十二種類の米を、それぞれチャック付きの保存袋に入れて、それをふつとうしたお湯の中に入れるというやり方で米をたきました。

食べ比べの結果は、たく時の水の量も少なかったのか、三十分までは、米のかたい部分が残っていました。反対に、浸水させ過ぎた米は水っぽくなってしまう、三時間浸水させた米は、甘みを感じました。もしかしたら、米が水をはき出す時に、米のうまみも出てしまうから、浸水時間が長くなり過ぎると、甘みがなく、水っぽいご飯になるのかなと思いました。

さっきの方法でたいた米は、米どうしについて、上手にたけなかったので、ミニ土なべで、浸水時間が四十五分、二時間、三時間の米だけたいてみました。二時間は甘みがあつて、モチモチしていて、ふつくら感もあり、一番おいしかったです。三時間は甘みが逃げて、少し水っぽく感じました。

ぼくは、この研究を通して、浸水時間や米のたき方が、ご飯の甘みなどに大きく違いきようすることが分かりました。農家さんが、一生けん命がんばっておいしい米を作ってくれても、食べるぼくたちが、その米の情報を理解していなかったり、たき方を失敗したりすると、おいしいご飯にならないこともあります。

ぼくは白いご飯が大好きです。食べ比べであまりおいしくないご飯を食べた時、がっかりしたし、もったいないとも思いました。ぼくは、土なべでご飯をたけるようになったので、時々、その米にあった浸水時間で、おいしいご飯をたいて食べたいと思います。

山形県知事賞

うちのごはん

高畠町立和田小学校三年

添川 夢叶

一日三回白いごはん。うれしい。

……ってべつに私、白いごはんが食べられないわけじゃない。

私は家族でたまに旅行をする。知らない場所に初めてのけ色、大きなお風呂におみやげ、思い出。そして何より、おいしいごはん。コロナがはやってからは、もっぱら県内旅行。だけどいいの。ここ山形には、おいしいお米があるから。つやひめ、はえぬき、雪若丸。もっちもちのふわふわ。ツヤツヤ、テクテカ、ホクホク、パクツ。やつぱり白いごはんは幸せを感じる。だって、うちのごはんは他の家とちよつとちがう。

「わが家のごはんはなぜ茶色？」

お母さんに聞いてみた。

「体にいいのよ。」

そんな一言で軽く流されてもこまる。うちのごはんは、げん米。それに加えつぶつぶ、プチプチの鳥のエサのようなものがまざってくることもたまに。ざつこくらしい。けんこうしこうのお母さんは、体にいいことは何でもする人なのだ。白米の何倍ものえいようがあつて、大きくなる私の体には大切なんだって。何となくわかったような気もする。だけど、やつぱり白いごはんは私のあこがれ。

お母さんは知らない。友だちとおべん当を食べる時、はずかしくてふたでかくしたり、ふりかけをかけてごまかしたりしたことを。だから私は、旅先で食べる白いごはんがとてもうれしく感じるの。おなかもちもいっぱいになって帰ってくると、また決まってテーブルにならぶ茶色いごはん。口に入れたそのしゅん間、旅のきんちようが一気にとけた。ボソツとしていて、つやもなく、ちよつとかためぬかくさいうちのごはん。だけど、なぜかホツとした。

やつぱり『サイコー!!』うちのごはん。

「いただきます。」

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

げんきパワーのおにぎり

真室川町立真室川北部小学校一年

佐藤 来彌

「おひるは、いつしよにおにぎりつくろう。」

おかあさんとおとうさんが、しごとでないひ、さみしそうにおるすばんをしていたわたしに、おばあちゃんがいました。

おかあさんがつくってくれるおにぎりは、ふりかけをまぜたごはんに、うめぼしをいれて、のりでまいてあります。でも、おばあちゃんがつくってくれるおにぎりは、しろごはんにすきなぐをいれて、のりでまいてくれます。ふたりのおにぎりは、すこしちがいます。

わたしのだいすきなぐは、しゃけ、なつとう、うめぼしです。にぎりかたは、おばあちゃんがやさしくおしえてくれました。はじめに、おさらのうえにラップ、のり、ごはんをおき、すきなぐをのせます。そして、ラップのかどをぜんぶつけて、いつきにぎ

ると、かんせいです。とてもかんたんでした。

おにぎりをつくっていたら、どんどんたのしくなつて、いつのまにか、さみしいきもちがどこかにとんでいつていました。ちいさくつくったおにぎりはとてもおいしくて、おばあちゃんはどこ、わたしははつこもたべました。おなかいっぱいいたべたら、げんきがでてきて、しあわせなきもちになりました。

おばあちゃんとおにぎりをつくってたべたことがうれしくて、しごとからかえってきたおかあさんにはなすと、

「はつこもたべたなんてすごいね。たのしそうでいいなあ。こんどはわたしともいつしよにつくつてくれるかな。」

といつてくれたので、いつしよにおにぎりをつくるやくそくをしました。

わたしは、げんきがなくてごはんがたべられないとき、おかあさんに、

「おにぎりつくつて。」

とおねがいます。おにぎりだと、たくさんたべることができます。たべると、げんきになることができます。おにぎりがだいすきです。

●全国優秀賞／山形県知事賞●

祖父と父の米作り

ーアイガモと共にー

三川町立押切小学校六年

齋藤 優空

「優空、アイガモのえさやりに行こう。」

父が私を起こす声がする。まだ、外は暗く朝の四時だ。さすがに毎朝四時に起きるのはつらく、田んぼまで行く車の中で眠りそうになることもある。

私の家は江戸時代から続く農家だ。父は八年前から祖父と一緒に米作りを始め、専業農家になった。祖父と父は先祖から続く土地でおいしい米を育てるために土作りを大切にしている。祖父は土は人間の身体と同じで栄養のバランスがとて

も大事だという。それで農薬や化学肥料を使わないアイガモ農法での米作りを続けている。

五月の田植えが終わつて一週間ほどすると田んぼにアイガモがやつてくる。父のこぶしほどの大きさのアイガモを田んぼに放している。来たばかりの頃は私が行くと怖がつて逃げてしまったが、毎日えさやりをしていると、車が田んぼに來ただけで、ガーガー鳴きながら一斉に集まってくるようになった。とてもかわいい。父が、

「カモとの信頼関係が大切なんだ。一度怖い思いをすると集まつてこなくなるんだ。」

と教えてくれた。私はカモに信頼されていると思うとちよつとうれしくなつた。アイガモは田に放してから、水をぬくまで一ヶ月ほど田にいます。一番虫を食べたり、水の中を泳ぎ回つて土を耕し、草が生えにくくしたりする。おかげで米がたくさん取れるようになる。しかし、アイガモをハクビシンやたぬきから守るために、田んぼ一面にネットを張つたり、電気柵を設置したり、カラスやわしから襲われないために釣り糸を五メートル間隔で張つたりする作業や、アイガモを返してからその後片付けがひと仕事だ。祖父と父がまさかそこまで手間

をかけているとは思っていなかった。なぜこんな苦
 労をしてまで、この栽培方法を続けるのか不思議
 に思った。父が祖父からアイガモ農法で米作りを
 引き継ぐと思っていたのは東京の人達との交流を
 通して、自分達農家より食や環境が身体に与え
 る影響を真剣に考えていることを知ったからだそ
 うだ。そして父自身も安全で安心な米を届けたい
 と思ったと話してくれた。今の米作りに満足しな
 いで、農家として知識を高め、さらにおいしい米作
 りを目指している父は私の自慢だ。

数年前から米の個人販売にも取り組み始め
 た。祖父と父が作った米を誰が食べているかわか
 り、直接意見や感想を聞くことで、米作りへのや
 る気が上がるそうだ。父がお客さんに届ける米の
 袋には私と妹の写真が貼つてある。ちよつとはず
 かしいが、私達の写真を貼つて、子ども達が安心し
 て食べられる米だということを知らせたいからだ。
 今年ももうすぐ稲刈りが始まる。祖父と父が育
 てた自慢の米がたくさんの人達に届く日も近い。

に思っていた。

だから、今年からやっと手伝いができて、うれし
 かった。頼ってもらえている感じがした。三町六反
 の田にそねを配る仕事は大変だったし、すごく疲
 れた。けれど、とつても楽しかった。じいちゃんやお
 父さんは、これを毎年やっているんだなと思うと、
 本当にすごいなと思う。

僕が通う京田小学校では、毎年、五年生が稲作
 体験学習をしている。田んぼの先生方のおかげで、
 コロナ禍だった去年も僕達は稲作体験をすることが
 できた。自分では真つすぐに植えたつもりだった
 けれど、知らず知らずのうちに左右に曲がってし
 まっていた。手植えは腰も痛くなるし、予想以上
 に大変だった。

この体験の後、僕も育てようと思って、家の砂
 場に、植え残っていた苗を一人で植えてみた。お父
 さんやばあちゃん達から
 「植えたんだね。すごいね!」

とほめられた。僕は、学校から帰るとすぐにその
 苗に水やりをした。じいちゃんからじょう剤の肥
 料を分けてもらうなど、世話もした。その後も、

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

ぼくの稲作 第一歩

鶴岡市立京田小学校六年

鈴木 亜悠睦

「亜悠睦、やるんだったらカッパ着て来い。」
 稲の苗を育てているハウスで苗出しをしているお
 父さんに言われて、僕は家につけこんだ。

「お母さん、カッパ着て来いって言われたから、着て
 いくね。」

「いつてらっしゃい。」

お母さんの明るい声を聞きながら、僕はウキウキ
 していた。やっとできるからだ。

僕は、四年生の時にも、苗出しがしたくてお願
 いしたけれど、その時には、

「たぶん、持てないと思うよ。もうちよつとしたら
 ね。」

と、お父さんに断られていた。確かに、苗出しのそ
 ねは重い。いつになったらできるの?と、僕は不満

「穂が出てきたよ。」病気になるっているのがあつた
 よ。」など、家族も僕の稲のことを気にして、いろい
 ろ教えてくれた。僕が学校に行っている時に、じい
 ちゃん達も水をかけたり、肥料をまいたりしてく
 れたらしい。おかげで、僕の稲は植えた三分の二ぐ
 らいが秋までに残つて、稲穂をつけた。でも、よく
 実つたのは二本ぐらいで、他のは実が小さかった。
 自分で刈つて干してみた。何と、一日ですすめ全
 部食べられてしまった。失敗つてあるんだなと僕は
 思った。ちゃんと管理しないと、病気になるたり雀
 に食べられたりしてしまう。

その点、じいちゃんはずい。他の家の田んぼで
 病気が発生しても、僕の家もなつたとは、あまり
 聞いたことがない。それだけ丁寧な観察しながら
 世話をしているんだと思うし、どうしたらよいか
 もいつぱい知っている。

僕もいつかじいちゃんみたいにな、おいしくてよい
 お米をたくさん作りたい。

今年初めて苗出しの手伝いをした田んぼは、も
 う一面、黄金色だ。稲刈りが待ちどおしい。

●全国優秀賞／山形県知事賞●

私の父

鶴岡市立朝日中学校 一年

有賀 咲星

「いただきますーす。」「今日のご飯は何?」私の父は農業をしています。つや姫と雪若丸とはえぬきを作っています。二年前に勤めていた会社を辞めて、それまでずっと一人で田んぼを守ってきた祖父と一緒に農業を始めました。

一年目は祖父の見習いをし、祖父の教えを聞きながら毎日の作業を一緒にやりました。会社に勤めていた時でも忙しい時は手伝っていた父ですが、一からやるとなると今までとは全然違い、覚えることがたくさんあり一つ一つが責任ある重いものだと言っていました。

二年目になると任せられた仕事量も増えて、でもやっぱりまだまだ祖父の見習いです。そして今

まります。私はこの時期が一番好きです。キラキラに光る水の入った田んぼに赤ちゃん苗が気持ちよさそうに風にゆれている光景。学校の行き帰り自転車に乗り、田んぼを見渡しながら走る私にさわやかな風が吹き抜けて、思わず話しかけたくくなります。「気持ちいいね。」と。

私達の手伝いはもう一つあります。それは暑い夏の日、田んぼの消毒です。みんなで汗だくになりながらホースを引っぱります。暑いし、汚くなるし、疲れていやになります。

「なんでこんな大変なことするなや?他の家みたいにヘリコプターでやればいいのに。」と父に言っていました。父は自分が育てた田んぼに入り、穂や葉の様子を見ながら「害虫から守るための大事な仕事だ。」と言っていました。その言葉を聞いてこれからは父が田んぼを守っていくんだなと実感しました。

父が会社に勤めているときは朝早く出て、夜遅くに帰ってきました。用事があるときは会わない日もありました。しかし農業をするようになって

年、ついに父が主に仕事をするようになりました。時々祖父が父に助言をします。いつもは冗談を言い面白い祖父なのに、この時は怖いほどしっかり父に話をします。父は黙って聞いています。こんな時は、私まで少しピシッと張りつめた気分になります。改めて祖父が守ってきた大切な田んぼを父に託すということがどんなことなのか少しだけわかった様な気がします。

我が家で一番忙しいのは春です。苗代の準備をします。プール育苗なので家族みんなの力が必要です。長いビニールを何本も敷きます。この時困るのが風です。そこで私たち兄弟の出番です。四人で大の字になりビニールを押さえます。その間に父、祖父、祖母が一斉に押さえをして飛ばさないようにします。祖父が私たちに「咲星たちが一番重要な仕事をしているんだ、本当に助かる、ありがとう。」と言ってくれました。私は役に立っているんだと思い、とても嬉しかったです。

私達が手伝った苗代に種をまいた箱を並べ十

五センチ位の苗に成長したらいいよ田植えが始からは、家にいる時間がたくさんあって、毎日のようにご飯も一緒に食べることができます。そして一番嬉しいのは、学校の行き帰りの田んぼに父がいることです。「気をつけて行ってこいよ。」「おかえり。」と、遠くから手を振っている父がいると思っただけで、少し暗くなった道も安心して帰ることができます。「農業は大変な作業がたくさんあるけれど無駄なこと何一つ無い。」その言葉に、米作りの厳しさを手伝いを通して知ることもできました。

サワサワと風になびく稲穂。今は又、違った田んぼの風景が広がっています。少しずつ変わっていくその様子に父と祖父、そしてちよっぴり私達兄弟四人の力が入っているんだと思うと、とても誇らしく思います。改めて来年もまた頑張って手伝おうと思いました。

私は今、大声で叫びたいです。「みんな頑張れよ。おいしいお米になれよ。」今日も私は元気です。私の元気の源は我が家のおいしいご飯です。

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

私の身体を作るお米

山形市立第二中学校一年

林谷 さくら

私は、春から中学校に通う一年生。私の通う中学校は、周囲が田んぼで囲まれている。春には、田んぼに水がはられ、きらきらと輝き、とても綺麗だ。カエルの鳴き声が聞こえたり、用水路からは、こぼこぼと水が流れたりして、のどかなところだ。中学でも小学生から続けている早寝、早起き、朝ご飯の生活リズムを続けるのが私の目標だ。早起きして食べる朝ご飯は、実に美味しい。特に、お米はつややかで、粘り気があり、かむと甘みも感じられるところが私は好きだ。録画したテレビを見ながら、リラックスして食べる朝食の時間は、一日の中でもとても貴重な。

私は、陸上部に入部した。慣れないスパイク

でも食べられる勢いだった。その後、熱が下がり、起き上がれるまでに回復した。

陸上競技の県大会の日が来た。気温は、四十度近くあり、暑くて、ばてそうになり、苦しかった。けれども、「何とか自分の走りをしたい。」そう願って出発の準備をして出番を待っていた。「バンッ。」勢いよくスタートダッシュできた。足を前へ前へ出し、一着でゴールした。予想以上の結果を残せた。嬉しかった。この日の朝も、おにぎりを食べた。粘り強く走ることができたのは、お米のおかげだったのかもしれない。

小学三、四年生の時、農業体験の活動が出来るJAわんぱくアグリスクールに参加した。八月頃、「米の花が咲きました。数時間しか咲かないのでぜひ見に来て下さい。」と、連絡が来たので行って見ると、小さなかわいい花が稲の先にびっしりと咲いていた。米作りは、苗を植え付けてから収穫までおよそ半年以上かかることを知った。その間、田んぼの水加減や虫食いの対策、稲の生育を常に気にかけて、大切に育てていることも

シューズで走ったら、足を負傷してしまった。痛くて、思うように走れなくなった。「そんなときほど美味しいご飯を食べて元気にならないきゃね。」

と母は言った。母は、私が帰宅してすぐにご飯が食べられるようにと、いつも用意して待っていてくれる。「今日の夕飯は何かな？」と、考えながら帰宅するのが毎日の楽しみだ。妹も母の作るご飯が大好きで、

「どっちが多く食べられるか競争ね。」と挑んできて、わいわいにぎやかに食べている。

田んぼの緑も鮮かになった夏休み、私は体調をくずした。立ち上がるとズキンと頭が痛む。食欲がなく横になっていると、母が、

「おかゆを作ったから食べて。」と、白がゆを作ってくれた。みそや梅干しとあわせて食べると、いくらでもすうっと口の中に入っていく。

「美味しい。」

久しぶりに食べるおかゆは、おかわりをして何杯

知った。台風被害で、収穫が出来ない時は悔しかったと聞き、米作りは天候に左右され、決して簡単ではなく、頭と体を使う大変な労力のかかる仕事だと考えさせられた。実際に、手で苗を植え付け、生長を観察し、稲刈りまでさせてもらって、少しでも農家の方々の気持ちを考えることができて、貴重な体験になった。

空気も水も環境も、米作りに適している山形で作られた美味しいお米。私は、お米が一番好きだ。炊きたてのご飯や、おかゆ、それから外で食べるおにぎりなど、これからも、山形のお米を食べて、中学校生活を頑張っていきたい。山形に、生まれ育つことが出来て本当に良かった。

夏休みも終わる頃、ふと田んぼを見ると稲が大きくなって風になびく姿が涼風を運んでくれているようだった。



作文部門審査講評

佐藤 昌彦

山形市立金井小学校校長

第四十六回「ごはん・お米とわたし」作文コンクールに、全国の小中学校から三万六千四百七十四点、県内で二百四十四点の作品が寄せられました。多くの作品を読ませていただき、惹きつけられた作品に共通している点を紹介します。

出展される作品は、生産と消費に関わる体験で大きく二分されます。生産体験を題材にした作品は、その多くが米作りに込めた熱い思いと苦労について書いています。また、消費の視点から書かれた作品は、「ご飯を通して家族の関わりや」「飯から元気をもらっていることについて書かれているものが中心です。こうした共通点の多いテーマの作品の中では、「頑張っている・頑張った」という体験で終わらずに、「なぜ頑張っているのか」という思いまで掘り下げ、そして「そのがんばりは自分にとってどんな意味をもっているのか」と価値づけている作品は、読み手の心に響いてきます。

今年度も、本県の作品が全国コンクールにおいて文部科学大臣賞・優秀賞に入賞するという素晴らしい結果となりました。ここでは、県審査において山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介합니다。

一部(小学校一年生から三年生)

○「うちのごはん」

(高島町立和田小学校三年 添川夢叶 山形県知事賞)

家で食べるお米は玄米だという夢叶さん。旅行先で食べたつやつやでふわふわの白米に幸せを感じ、一方で、家に帰ってまたいつもの玄米ご飯を食べるとなぜかほっと一安心。非日常を体験したからこそ、いつも食べている玄米のよさや安心感を再認識できたことがとてもよく伝わってきて、共感しました。玄米や白米に対する素直な思いを、歯切れのよい短文で綴っていくことで、文章全体にリズムが生まれ、読んでいて一気に作品に引き込まれました。

○「げんきパワーのおにぎり」

(真室川町立真室川北部小学校一年 佐藤来彌 山形県農業協同組合中央会会長賞)

留守番をしていてさみしかったのが、おばあちゃんと一緒ににおにぎりを作っているうちに楽しくなってきた。食べてみたら元気が出て幸せな気持ちになったという気持ちの変化が、一年生らしい素直な言葉で表現されている作品です。特に、さみしさが吹き飛んだことがわかる「わたしは八個も食べました」という誇らしげな言葉から、その時の表情が目に浮かびました。また、作文後半のお母さんとの会話文からは、その場の温かい雰囲気がとてもよく伝わってきました。

二部(小学校四年生から六年生)

○「祖父と父の米作り ―アイガモと共に―」

(三川町立押切小学校六年 齋藤優空 山形県知事賞)

優空さんが実際に捉えた場面と、おじいさんとお父さんのアイガモ農法に

敦

建部

大江町立左沢小学校校長

第四十六回「ごはん・お米とわたし」図画コンクールには、全国の小・中学校から四万五千九百五十一一点の作品が寄せられました。県内からはコロナ禍にもかかわらず六百五十七点の応募があり、本コンクールに毎年たくさん

の応募があることを嬉しく思います。このコンクールを通して、私たちの食文化を支えているごはん、お米のある暮らしなどを見つめ、その良さを実感したり見直したりすることは、小中学生の皆さんにとって家庭や地域を大切にするにつながついていくのだらうと、審査をしながら強く感じたところです。

今回寄せられた作品には、日本の原風景ともいえる美しい田んぼの様子や、その中で稲を育て収穫している農家の方々の姿、収穫したお米をいろんな調理法でおいしそうにいただいている場面などが、実に愛情たつぷりに描かれていました。また、様々な場面を組み合わせて構想的に表現している作品もあり、喜びや感謝、幸せややすらぎなど、描いたみなさん一人ひとりの表現したかった思いや願いが十分伝わってくる作品の数々でした。

本県の2作品が全国でも優秀賞に入賞するという素晴らしい結果となりましたが、ここでは、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介します。

一部(小学校一年生から三年生)

○「がんばった なえばごはん」

(南陽市立荻小学校二年 殿岡直澄 山形県知事賞)

画面いっぱい大きく描かれた苗箱を運ぶ作者。進行方向を見つめる横顔の表情や苗箱の持ち方などから、苗を大事にそとと運んでいる様子が伝わってきます。遠くで見守ってくれているのは家族でしょうか。二人につながりを感じられ、作者の役立ちたいという気持ちまで想像できます。二人の人物の大きさやその間に並べられている苗箱から奥行きを感じさせる素晴らしい作品です。

○「おいしいお米になりますように」

(川西町立吉島小学校三年 高梨倅芽 山形県農業協同組合中央会会長賞)

田植えと苗を運んでいる農家の方が後姿で描かれています。顔は見えないが苗を運んでいる方が大きなおむすびを食べている女の子を想像している様子から、おいしく食べてもらえとお米を育てていこうという願いが読み取れ、その顔つきや表情にまで想像がふくらみます。背中や土のついた衣類などを描きながら農家の方の心情に想いを馳せ、心のこもった一枚に仕上がりました。

かける思いが、交互に描かれ、良質なドキュメント番組を見ているかのような構成になっています。情景と思いのつながりもとても自然で、読み手を作品の世界に引き込みます。この作品での優空さんは、米作りに取り組む登場人物でもあります。それ以上に、厳しく困難な取り組みに果敢に挑戦しているおじいちゃんとお父さんに対するあこがれと尊敬を伝える語り手として、みごとな役割を果たしています。

○「ぼくの稲作 第一歩」

(鶴岡市立京田小学校 六年 鈴木亜悠睦 山形県農業協同組合中央会会長賞)

タイトルに表れているように、この作品は、亜悠睦さんの成長ストーリーなのだと感じました。初めて苗出しを頼まれ、それをしつかりやり遂げたことで、自分の成長を実感していることが伝わってきました。また、自分の稲を育てた場面では、頑張れば成功するという甘さはなく、「失敗ってあるんだな」という気づきから、これからいよいよ子どもの世界から実社会へと少しずつ歩を進めようとする亜悠睦さんの巣立ちの時を感じられる作品になっています。

三部(中学生)

○「私の父」

(鶴岡市立朝日中学校 一年 有賀咲星 山形県知事賞)

田んぼを長年守ってきたおじいさんとお父さんが仕事を辞めて一緒に農業に取り組む様子がいきいきと描かれています。おじいさんが米作りに責任と誇りをもっていることが伝わり、感動的な文章になっています。さらに家族みんなで米作りをする様子や、働いているお父さんやおじいさんとの会話文には、温かい家族愛も描かれています。田んぼの情景を描写する表現は美しく、会話文も効果的に配置されています。心温まる作品です。

○「私の身体を作るお米」

(山形市立第二中学校 一年 林谷さくら 山形県農業協同組合中央会会長賞)

美しい情景描写から始まる文章で、読み手を一気に引き込んでいます。陸上部で頑張っている自分にとって、ご飯はなくてはならないものであるということをお母さんとの会話や、大会で走る様子などを描くことで効果的に表現しています。また、小学生の頃に体験した米作りにつなぎ、農業への考えが深まったこともよく伝わってきました。春から夏へと変化する季節の描写と、田んぼの様子の移り変わりも見事に描かれています。

山形県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、高島町立和田小学校と鶴岡市立朝日中学校が受賞されました。

二部(小学校四年生から六年生)

○「苗を一本ずつていねいに」

(尾花沢市立宮沢小学校五年生 柴田鉄汰 山形県知事賞)

自身の体験をもとに、苗を一本ずつ植えていったときの思いを丁寧に絵に表しています。仲間とともに腰をかがめながら取り組んでいる様子を、視点を工夫しながらとらえている構図が面白いです。

水に映る姿や土壌の濃淡など絵としての完成度が高く、真摯に絵と向き合い取り組んできたことが伝わってくる作品です。

○「お米とわたし」

(山形大学附属小学校六年 笹生大河 山形県農業協同組合中央会会長賞)

田園風景や秋を感じさせる色合いから、山形郷土への愛着が感じられます。大きなしゃもじでお米をすくっている表情からは喜びと感謝が感じられ、お米をつくる人との構図もよく描かれています。お米の白いつぶには輝きがあり、その存在感が絵のテーマをよく表現しています。

三部(中学生)

○「山形、古き良き田園」

(山形市立第五中学校一年 井田大成 山形県知事賞)

夏から秋へと向かう季節、稲穂も実りへと向かう水田を描きました。山際の広大な田にさわやかな風が渡る風景です。同系色の緑の中に、昔ながらの水車が構図を引きしめるアクセントになっています。

白い道も夏を感じさせるアクセントです。手前の稲の穂の黄金色も丁寧に描いています。故郷山形の雄大さも表現されています。

○「笑顔あふれる秋の食卓」

(山形市立第五中学校一年 川合海音 山形県農業協同組合中央会会長賞)

淡彩画の技法で丁寧に描いています。鉛筆によるデッサンもしっかりしています。また彩色においても淡い色を何度も重ね、深みのある色合いを出しています。ご飯の粒やコップの水、手やおかずの濃淡の表現も見事です。右上に稲穂を描き、構図も工夫しています。顔の表情は描かずに、食卓や手、ご飯、箸で「笑顔」を表そうとしています。

山形県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、山形大学附属小学校と山形市立第五中学校が受賞されました。

図画部門審査講評

(敬称略)

第46回	第44回	第43回	第42回	第41回	第40回	
山形県 ● 県知事賞 添川 夢叶 (高畠町) 齋藤 優空 (三川町) 有賀 咲星 (鶴岡市) ● 県中央会会長賞 佐藤 来彌 (真室川町) 鈴木亜悠陸 (鶴岡市) 林谷さくら (山形市) ● 優秀賞 土屋 晴路 (山形市) 松浦 李那 (山形市) 佐藤 衣鞠 (三川町) 佐藤 風 (鶴岡市) 高橋 陽 (真室川町) 中嶋 尊帆 (最上町) 田村 理音 (米沢市) 渡辺 琉生 (最上町) 宮澤 桃季 (米沢市) 我妻 尚哉 (高畠町) 寒河江万葉 (南陽市) 鈴木 崇仁 (米沢市) 石川 和翔 (米沢市) 菅原 紗希 (白鷹町) ● 学校奨励賞 高畠町立和田小学校 鶴岡市立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 相田 瑛舞 (南陽市) 安部くるみ (米沢市) 丸谷 真嬉 (鶴岡市) ● 県中央会会長賞 田村 理音 (米沢市) 宗形 柚希 (山形市) 小林 柊也 (川西町) ● 優秀賞 横山 莉子 (山辺町) 菅原 菜央 (東根市) 矢口 美颯 (最上町) 北澤 優志 (米沢市) 森谷 菜南 (鶴岡市) 後藤 怜皇 (最上町) 安食 日涼 (戸沢村) 我妻 尚哉 (高畠町) 伊藤 清子 (米沢市) 佐藤 舜太 (米沢市) 早坂 菜摘 (米沢市) 戸田 和幸 (米沢市) 山崎 遙斗 (米沢市) 保科 紅葉 (川西町) 中目 量太 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 米沢市立北部小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校	山形県 ● 県知事賞 柴田 皇 (山形市) 佐藤 柳 (庄内町) 手塚 大地 (米沢市) ● 県中央会会長賞 杉浦 凜 (米沢市) 原田 昊土 (鶴岡市) 丸谷 亮太 (鶴岡市) ● 優秀賞 峯田 孝誠 (米沢市) 齋藤 夢佳 (村山市) 土田 朝瑠 (村山市) 天野 悠都 (村山市) 青木 舞桂 (米沢市) 安部くるみ (米沢市) 加藤 花音 (高畠町) 本間 智妃 (三川町) 高橋龍之介 (南陽市) 樋口 佳汰 (白鷹町) 伊藤 葵 (川西町) 齋藤由希哉 (高畠町) 佐藤 弥桜 (鶴岡市) 梅本 京香 (鶴岡市) 疋田 夏海 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 村山市立橋岡小学校 川西町立川西中学校	山形県 ● 県知事賞 安部くるみ (米沢市) 佐藤 舜太 (米沢市) 鈴木 雄貴 (米沢市) ● 県中央会会長賞 佐藤 花音 (三川町) 千田 悠悠 (南陽市) 伊藤 芽琉 (山形市) ● 優秀賞 鈴木 萌音 (山形市) 佐藤 純真 (高畠町) 齊藤 逞真 (最上町) 阿部 瑠空 (新庄市) 手塚 遙斗 (高畠町) 手塚 大地 (米沢市) 加藤 響 (大蔵村) 井上 櫻子 (高畠町) 星 七葉子 (新庄市) 阿部 真宙 (最上町) 平清水なおり (山形市) 高橋 陸斗 (山形市) 大橋 彩未 (米沢市) 佐藤慶太郎 (川西町) 鈴木 広美 (米沢市) ● 学校奨励賞 米沢市立塩井小学校 米沢市立第二中学校	山形県 ● 県知事賞 野川 裕太 (米沢市) 高橋 悠太 (天童市) 佐藤 百華 (米沢市) ● 県中央会会長賞 木内 春陽 (東根市) 伊藤 柚葵 (天童市) 松本 季子 (米沢市) ● 優秀賞 鈴木 あこ (庄内町) 安部くるみ (米沢市) 加藤 翼沙 (高畠町) 柴崎 皓大 (最上町) 堀川 遙 (天童市) 大場新之助 (最上町) 伊藤 楓華 (天童市) 大類 渚 (天童市) 佐藤 里菜 (米沢市) 小野 海咲 (最上町) 高橋 夢月 (米沢市) 山木 穂 (米沢市) 竹田 勇貴 (米沢市) 鈴木 里桜 (米沢市) 舟山 楓夏 (山形市) ● 学校奨励賞 天童市立津山小学校 米沢市立第二中学校	山形県 ● 県知事賞 鈴木 佑佳 (山形市) 佐藤虎太郎 (真室川町) 吉田 ゆい (米沢市) ● 県中央会会長賞 畠腹 里玖 (新庄市) 伊藤 晴夏 (三川町) 山口 雅乃 (鶴岡市) ● 優秀賞 安部くるみ (米沢市) 中川 峻 (南陽市) 木内 春優 (東根市) 早坂 涼太 (東根市) 川田 健太 (新庄市) 笠原 莉玖 (新庄市) 小下 健太 (高畠町) 田中 空来 (寒河江市) 佐藤 弥桜 (鶴岡市) 庄司潤一郎 (真室川町) 加藤 朱音 (米沢市) 新野 涼香 (川西町) 橋本 未句 (米沢市) 高野穂乃花 (山形市) 伊藤 寧音 (山形市) ● 学校奨励賞 新庄市立萩野小学校 米沢市立第二中学校	作 文 部 門
全 国 ● 文部科学大臣賞 茂木 耀義 (米沢市) ● 優秀賞 齋藤 優空 (三川町) 有賀 咲星 (鶴岡市)	全 国 ● 文部科学大臣賞 青木 舞桂 (米沢市) ● 農林水産大臣賞 園部 杏莉 (庄内町) ● 優秀賞 丸谷 真嬉 (鶴岡市)	全 国 ● 優秀賞 佐藤 柳 (庄内町)	全 国 ● 全国農業協同組合中央会会長賞 早坂 佑羽 (大蔵村) ● 優秀賞 佐藤 舜太 (米沢市)	全 国 ● 優秀賞 野川 裕太 (米沢市) 高橋 悠太 (天童市) 佐藤 百華 (米沢市)	全 国 ● 全国農業協同組合中央会会長賞 後藤 天羽 (最上町) ● 優秀賞 吉田 ゆい (米沢市)	図 画 部 門
山形県 ● 県知事賞 殿岡 直橙 (南陽市) 柴田 鉄汰 (尾花沢市) 井田 大成 (山形市) ● 県中央会会長賞 高梨 倅芽 (川西町) 笹生 大河 (山形市) 川合 海音 (山形市) ● 優秀賞 庄司 圭吾 (尾花沢市) 畠腹 啓翔 (新庄市) 五十嵐友築 (尾花沢市) 松田 彩那 (庄内町) 齋藤 一花 (山形市) 荒木 怜人 (村山市) 落合 純音 (尾花沢市) 佐藤 珠々 (山形市) 阿部 桜貴 (高畠町) 木村 佳恵 (山形市) 後藤 大駕 (米沢市) 漆山 陽向 (山形市) 鈴木 大虎 (飯豊町) 佐藤 暖 (天童市) 伊藤 美緒 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 山形大学附属小学校 山形市立第五中学校	山形県 ● 県知事賞 秋保 一路 (尾花沢市) 木村 佳恵 (山形市) 古内 慧土 (山辺町) ● 県中央会会長賞 工藤 壮真 (新庄市) 星川 煌 (尾花沢市) 朝倉 春花 (山形市) ● 優秀賞 関 心和 (白鷹町) 大場 雄翔 (最上町) 石山 蒼 (最上町) 鈴木 瑠桜 (米沢市) 佐藤 花音 (三川町) 西尾アシュリン (尾花沢市) 尾崎ありさ (尾花沢市) 尾崎 翠玖 (尾花沢市) 狩野 祐輔 (高畠町) 岩浪 廉 (鶴岡市) 原田 陽菜 (山形市) 鈴木妃依里 (山形市) 川口 憧 (山辺町) 宗田 萌 (山辺町) 齋藤 美維 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山辺町立山辺中学校	山形県 ● 県知事賞 遠藤 嘉乃 (尾花沢市) 遠藤 真心 (尾花沢市) 富樫 優有 (山形市) ● 県中央会会長賞 佐藤 瑛太 (尾花沢市) 石山 万莉 (尾花沢市) 加藤百合亜 (新庄市) ● 優秀賞 安彦咲汰朗 (南陽市) 二戸 心菜 (最上町) 後藤 莉渚 (尾花沢市) 西塚 悠生 (尾花沢市) 原田 僚 (尾花沢市) 永沢 真彩 (尾花沢市) 齋藤 眞輝 (鶴岡市) 村上 菜生 (三川町) 佐藤 結望 (三川町) 高橋 伊吹 (尾花沢市) 原田 陽菜 (山形市) 木元素玖凜 (鶴岡市) 薬科ひなた (米沢市) 松田 桃香 (鶴岡市) 箱山 妃南 (新庄市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校	山形県 ● 県知事賞 和田 紗采 (山形市) 秋保 大地 (尾花沢市) 富樫 優有 (山形市) ● 県中央会会長賞 加藤 朱葵 (南陽市) 元木 煌瑛 (東根市) 石倉 妃華 (山辺町) ● 優秀賞 小野健太郎 (山形市) 佐藤この実 (鶴岡市) 佐藤 明咲 (最上町) 手塚 遙斗 (高畠町) 浦山 結羽 (米沢市) 富樫 太一 (尾花沢市) 二瓶 耕太 (山形市) 三坂 琉音 (尾花沢市) 志村直太郎 (尾花沢市) 澤 悦菜 (高畠町) 渡邊 和哉 (山形市) 齋藤 桃々 (山形市) 松田 桃香 (鶴岡市) 鈴木 里桜 (米沢市) 箱山 妃南 (新庄市) ● 学校奨励賞 山形大学附属小学校 山形市立金井中学校	山形県 ● 県知事賞 鈴木 大智 (高畠町) 後藤 早希 (東根市) 佐藤 龍心 (鶴岡市) 安野 世那 (尾花沢市) 渡部 連 (鶴岡市) 村山 亜弥 (山辺町) ● 優秀賞 加賀山 蒼 (鶴岡市) 三坂明日葉 (尾花沢市) 山川 大翔 (山形市) 石山 裕士 (尾花沢市) 伊藤 愛陽 (尾花沢市) 高橋 悠太 (天童市) 菅野 柚杏 (尾花沢市) 齋藤 美維 (鶴岡市) 佐藤 陽菜 (尾花沢市) 佐藤 樹杏 (鶴岡市) 阿部 心暖 (河北町) 齋藤 香奈 (山形市) 齋藤 遥奈 (山形市) 石川 妃咲 (山形市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立金井中学校	山形県 ● 県知事賞 熊谷飛悠吾 (尾花沢市) 伊藤 拓磨 (尾花沢市) 鎌田 龍也 (山辺町) ● 県中央会会長賞 金内 大和 (鶴岡市) 伊藤 未希 (尾花沢市) 工藤 千慧 (山形市) ● 優秀賞 石山 竜成 (最上町) 松田 紗和 (鶴岡市) 高橋 晴 (最上町) 星 七葉子 (新庄市) 笠原 未羽 (最上町) 柴崎 大和 (尾花沢市) 詩歩 大和 (大蔵村) 田中 未咲 (山形市) 石澤 元乾 (山辺町) 田辺 理紗 (飯豊町) 中島 彩 (山形市) 佐藤 龍心 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立鶴子小学校 山形市立金井中学校	図 画 部 門
全 国 ● 優秀賞 殿岡 直橙 (南陽市) 井田 大成 (山形市)	全 国 ● 優秀賞 遠藤 嘉乃 (尾花沢市) 遠藤 真心 (尾花沢市)	全 国 ● 優秀賞 遠藤 嘉乃 (尾花沢市) 遠藤 真心 (尾花沢市)	全 国 ● 文部科学大臣賞 井上 花帆 (尾花沢市) ● 優秀賞 富樫 優有 (山形市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校	全 国 ● 優秀賞 鈴木 大智 (高畠町)	全 国 ● 優秀賞 平間 杏奈 (山形市)	入 賞 一 覧

※第45回はコロナ禍のため中止

(敬称略)

第39回	第38回	第37回	第36回	第35回	第34回
山形県 ● 県知事賞 門脇 陽希 (大蔵村) 後藤 芽衣 (河北町) 森村 春輝 (山形市) ● 県中央会会長賞 軽部 翔真 (寒河江市) 青木 実央 (新庄市) 留守めぐみ (米沢市) ● 優秀賞 後藤 天星 (最上町) 早坂 颯真 (東根市) 加藤 響 (大蔵村) 後藤 有瑠 (高畠町) 伊藤准輝亜 (高畠町) 小澤 爽太 (白鷹町) 五十嵐広大 (鶴岡市) 丸山 美優 (鶴岡市) 打田ゆらら (白鷹町) 荒木 怜 (最上町) 八巻 怜花 (米沢市) 山口 雅乃 (鶴岡市) 今野 佑香 (米沢市) 渋江 初菜 (山形市) 井上 砂城 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 山形市立第三中学校	山形県 ● 県知事賞 佐々木美耀 (米沢市) 高橋満里奈 (新庄市) 小野寺涼太 (鶴岡市) ● 県中央会会長賞 阿部 聖音 (酒田市) 佐藤 礼夢 (鶴岡市) 安部 優香 (米沢市) ● 優秀賞 上林 奈央 (鶴岡市) 津藤 奏 (山形市) 小野幸治郎 (大蔵村) 早坂 大翔 (大蔵村) 安部 真桜 (米沢市) 田村 健人 (米沢市) 諏訪 琳音 (鶴岡市) 大滝 星矢 (鶴岡市) 佐藤 陽理 (南陽市) 伊藤 日高 (鶴岡市) 伊藤 優太 (山形市) 鈴木 千絵 (南陽市) 高橋真惟子 (南陽市) 石原 花凜 (飯豊町) 清和 怜真 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 鶴岡市立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 伊藤 風牙 (鶴岡市) 井上 瑞貴 (山形市) 松寄 大吾 (米沢市) ● 県中央会会長賞 佐竹 巧 (山形市) 笹本 悠奈 (庄内町) 安部 咲輝 (鶴岡市) ● 優秀賞 早坂 大翔 (大蔵村) 朝倉 愛子 (南陽市) 丸山 美優 (鶴岡市) 渋谷 結 (鶴岡市) 佐藤 光 (鶴岡市) 池田 結 (庄内町) 會田 空翔 (山形市) 森 優奈 (米沢市) 佐藤みのり (庄内町) 齋藤 結月 (鶴岡市) 須貝 麗夢 (米沢市) 小野寺拓海 (鶴岡市) 高内 澤奈 (山形市) 井上 れな (鶴岡市) 遠藤 美月 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 米沢市立第四中学校	山形県 ● 県知事賞 五十嵐まりあ (山形市) 土門 匠 (天童市) 早川 舞乃 (山形市) ● 県中央会会長賞 大滝 楓人 (鶴岡市) 伊藤 琉圭 (鶴岡市) 阿部 咲輝 (鶴岡市) ● 優秀賞 森 壮汰 (村山市) 安達 涼乃 (大石田町) 阿部 夢叶 (最上町) 横山 陽音 (米沢市) 大滝 星矢 (鶴岡市) 細久 愛結 (村山市) 矢萩 優生 (村山市) 曾根 匠人 (米沢市) 齋藤 亜美 (鶴岡市) 渡部さくら (鶴岡市) 太田 里美 (米沢市) 渡部 羅夢 (鶴岡市) 森谷 咲耶 (東根市) 舟山 愛理 (米沢市) 中村梨恵子 (山形市) ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝日大泉小学校 鶴岡市立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 寺崎亜寿美 (大石田町) 工藤 暢晃 (庄内町) 小野 茜 (朝日町) ● 県中央会会長賞 佐藤 流偉 (鶴岡市) 菅原彩花里 (鶴岡市) 菅井 潯 (朝日町) ● 優秀賞 後藤 美空 (米沢市) 菅原 菜央 (鶴岡市) 鈴木 駿佑 (最上町) 會田 空翔 (山形市) 鈴木 花凜 (米沢市) 伊藤南奈美 (鶴岡市) 長沼龍之介 (高畠町) 斉藤 健 (真室川町) 齋藤 元希 (大石田町) 小林 一樹 (寒河江市) 井上 玲 (米沢市) 大橋 鉄郎 (米沢市) 坂野 涼子 (米沢市) 江部ひふみ (米沢市) 香澤 佑樹 (山形市) ● 学校奨励賞 大石田町立大石田小学校 朝日町立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 伊藤南奈美 (鶴岡市) 難波 葵 (鶴岡市) 平山 美紀 (山形市) ● 県中央会会長賞 今野 杏唯 (鶴岡市) 菅 瑞季 (最上町) 白石みおり (米沢市) ● 優秀賞 原田 真白 (米沢市) 會田 空翔 (山形市) 押切 真依 (最上町) 後藤 大空 (米沢市) 押野 明純 (鶴岡市) 高橋 歩美 (高畠町) 阿部 杏香 (鶴岡市) 安部 航大 (高畠町) 近藤 舞 (鶴岡市) 山下 純平 (最上町) 遠藤 ゆい (鶴岡市) 渡部 加菜 (米沢市) 高橋 奏 (米沢市) 山口 大智 (南陽市) 我妻 隆羅 (米沢市) ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 鶴岡市立朝日中学校
全 国 ● 農林水産大臣賞 松浦蒼一郎 (庄内町) ● 優秀賞 門脇 陽希 (大蔵村) 後藤 芽衣 (河北町) 森村 春輝 (山形市) ● 学校奨励賞 庄内町立余目第一小学校	全 国 ● 優秀賞 小野寺涼太 (鶴岡市)	全 国 ● 優秀賞 伊藤 風牙 (鶴岡市) 井上 瑞貴 (米沢市) 松寄 大吾 (米沢市)	全 国 ● 文部科学大臣賞 小林 千紗 (高畠町) ● 優秀賞 五十嵐まりあ (山形市) ● 学校奨励賞 高畠町立第二中学校	全 国 ● 文部科学大臣賞 瀬川 隼矢 (庄内町) ● 農林水産大臣賞 石森 泉 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 庄内町立余目第四小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校	全 国 ● 農林水産大臣賞 齋藤 隼也 (鶴岡市) ● 学校奨励賞 鶴岡市立西郷小学校 ● 優秀賞 白石みおり (米沢市) 平山 美紀 (山形市)
山形県 ● 県知事賞 三嶋 優 (尾花沢市) 佐藤ひより (山形市) ● 県中央会会長賞 鈴木 佑奈 (大石田町) 遠藤 陸冬 (尾花沢市) ● 優秀賞 星川 葵 (尾花沢市) 原田 結奈 (尾花沢市) 星川 椿 (尾花沢市) 矢作 結母 (尾花沢市) 富樫 智花 (山形市) 小野 慈和 (尾花沢市) 今野 泰成 (尾花沢市) 五十嵐雄汰 (鶴岡市) 佐藤 夏都 (鶴岡市) 菅藤 心菜 (尾花沢市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立福原小学校	山形県 ● 県知事賞 阿部 大翔 (尾花沢市) 二瓶 寛太 (山形市) 平間 杏奈 (山形市) ● 県中央会会長賞 江刺さくら (尾花沢市) 早坂 美羽 (尾花沢市) 本澤 育実 (山形市) ● 優秀賞 五十嵐羽琉 (鶴岡市) 堀江 星琉 (尾花沢市) 笹原 月吹 (尾花沢市) 佐藤 愛心 (村山市) 佐藤 なお (鶴岡市) 渡辺 成美 (尾花沢市) 鈴木 来春 (尾花沢市) 齋藤 亜子 (尾花沢市) 菅藤 優成 (尾花沢市) 佐藤 花玲 (鶴岡市) 井上 楓 (山形市) 山口 桃佳 (山形市) 枝松 伶奈 (山形市) 藤原 優衣 (山形市) 齋藤 穂歌 (山形市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校	山形県 ● 県知事賞 押切 零旺 (尾花沢市) 渡辺 成美 (尾花沢市) 高橋 綾香 (山形市) ● 県中央会会長賞 渡倉 主悟 (尾花沢市) 日下 和也 (高畠町) 竹田夏奈子 (山形市) ● 優秀賞 三浦 匠悟 (尾花沢市) 小林 由侑 (尾花沢市) 伊藤 拓磨 (尾花沢市) 西尾 真央 (尾花沢市) 叶野 空和 (鶴岡市) 長永 千佳 (庄内町) 吉田京次郎 (山形市) 柴田 唯太 (天童市) 砂田 千夢 (鶴岡市) 東海林玲奈 (尾花沢市) 小幡 圭佑 (尾花沢市) 三浦 幸司 (尾花沢市) 佐藤 俊貴 (鶴岡市) 進藤 円 (山形市) 梅木 泉美 (山形市) 高橋 真優 (山形市) 横沢 美玖 (山形市) 齋藤 光 (南陽市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立金井中学校	山形県 ● 県知事賞 斎藤 匠 (東根市) 溝越 真輝 (尾花沢市) 大滝 日菜 (山形市) ● 県中央会会長賞 星川 悠人 (尾花沢市) 小幡 あみ (尾花沢市) 半田さつき (山形市) ● 優秀賞 越前 快斗 (尾花沢市) 尾崎 李果 (尾花沢市) 笹原 優極 (尾花沢市) 叶野 空和 (鶴岡市) 宇田 竜健 (庄内町) 東海林玲奈 (尾花沢市) 本間 海成 (尾花沢市) 小幡 圭佑 (尾花沢市) 三浦 幸司 (尾花沢市) 佐藤 俊貴 (鶴岡市) 進藤 円 (山形市) 梅木 泉美 (山形市) 高橋 真優 (山形市) 横沢 美玖 (山形市) 齋藤 光 (南陽市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立第九中学校	山形県 ● 県知事賞 柴崎 真人 (最上町) 森谷 康平 (山形市) 原田 拓夢 (山形市) ● 県中央会会長賞 加賀 悠大 (鶴岡市) 小幡 圭佑 (尾花沢市) 荒井瑛絵子 (山形市) ● 優秀賞 高橋 龍馬 (大石田町) 鈴木 来春 (尾花沢市) 笹原 実莉 (尾花沢市) 五十嵐一樹 (尾花沢市) 西塚 優太 (尾花沢市) 星 竜成 (米沢市) 佐藤 一貴 (天童市) 五十嵐友寿 (鶴岡市) 佐藤 俊貴 (鶴岡市) 押野 尚道 (鶴岡市) 大滝 日菜 (山形市) 高橋 里沙 (山形市) 吉田 心 (山形市) 遠藤 千央 (山形市) 鈴木 里奈 (山形市) ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝陽第二小学校 山形市立金井中学校	山形県 ● 県知事賞 丹波 優大 (尾花沢市) 森谷 康平 (山形市) 鈴木 智佳 (山形市) ● 県中央会会長賞 菅 佑菜 (最上町) 小幡 剛 (尾花沢市) 武田可奈子 (山形市) ● 優秀賞 伊藤日向子 (鶴岡市) 廣瀬 佳那 (尾花沢市) 平井 堅太 (高畠町) 宮崎 泰成 (鶴岡市) 西尾 文佳 (尾花沢市) 海谷 有美 (高畠町) 佐賀井千里 (鶴岡市) 高橋 捷 (尾花沢市) 今野杏有子 (三川町) 前田 和哉 (鶴岡市) 荒井瑛絵子 (山形市) 田中 敦子 (山形市) 阿部 浩宣 (山形市) 岸 由麻 (山形市) 三浦 彩希 (山形市) ● 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校
全 国 ● 農林水産大臣賞 平間 杏奈 (山形市)	全 国 ● 優秀賞 平間 杏奈 (山形市)	全 国 ● 農林水産大臣賞 志田 葉月 (山形市) ● 学校奨励賞 山形市立第九中学校	全 国 ● 優秀賞 半田さつき (山形市)	全 国 ● 農林水産大臣賞 西田 知世 (山形市) ● 学校奨励賞 山形市立第九中学校	全 国 ● 農林水産大臣賞 會田 三郎 (山形市) ● 学校奨励賞 山形市立南小学校 ● 優秀賞 鈴木 智佳 (山形市)

『ごはん・お米とわたし』作文・図画コンクール

第34回〜第46回 入賞一覧

◆第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領◆

1. 趣 旨

本コンクールは、J Aグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた水田農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として実施する。

2. 課題（作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

3. 応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。
特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。

4. 応募規格（枚数・大きさ）

【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生（400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内）
2部 小学校4年生～6年生（400字詰め原稿用紙3枚以内）
3部 中学校1年生～3年生（400字詰め原稿用紙4枚以内）
(注) 作文用紙1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出してください（学校名、学年、氏名が3行になる場合は4行目から本文を書き出してください）。
(注) 本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。
ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。

【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生
2部 小学校4年生～6年生
3部 中学校1年生～3年生
B3判（364×515ミリ）、もしくは四つ切り（380×540ミリ）の市販画用紙を使用。画材は特に制限しません。

5. 応募規則

- (1) 作文・図画とも課題にそった作品を対象とします。
(2) 応募は本人の未発表でオリジナルの作品に限ります。また、他のコンテンツに応募していない作品に限ります。他人の写真や作品を模写・模倣したものは応募できません。著作権、商標権、肖像権など、他者の権利を侵害する作品は応募できません。
(3) ひとりで1部門に2点以上の応募はできません。2点以上応募の場合は、**2点とも審査対象外となる場合があります。**
(4) 図画作品でスローガンや文字を入れたポスター的なものや台紙に貼ったものは応募できません。
(5) 学校で応募の際は、別添の推薦名簿（作文部門7ページ、図画部門8ページ）を切り取りもしくはコピーしたうえで記入し、必ず添付してください。**コピーする場合は、必ずA4サイズでコピーしてください。**
(6) 作品には、1点ごとに次の事項を記入した応募票(6ページ)をつけてください。つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。①作品の題名②氏名・性別③学校名・学年・組④学校の所在地（郵便番号・電話番号）⑤本人の住所（郵便番号・電話番号）⑥J A（農業協同組合）名
(7) 全応募作品を、表彰式終了後の2月下旬ごろ、各J Aから応募校を通じて応募者に返却いたします。また、全国コンクールの大臣賞および全国農業協同組合中央会長賞受賞作品ならびに山形県コンクールの山形県知事賞および山形県農業協同組合中央会長賞受賞作品は、レプリカを作成し、大臣賞受賞作品は永年、山形県知事賞・山形県農業協同組合中央会長賞は1年間、協同の柱に展示します。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会および山形県農業協同組合中央会に帰属します。
(8) 作品を応募することによって、応募作品をJ Aグループの広報活動および諸事業活動のために利用することに予め承諾したものとします。その際、作文の部分的な抜き出しや、図画のサイズの変更・トリミングなど一部改変させていただく場合があります。印刷等の都合上、実際の作品と色が多少異なる場合がございます。
(9) 記入いただいた個人情報は、入賞通知・発表や表彰式などのほか、県名、学校名、学年、氏名等の一部情報についてはプレスリリース等のメディアへの発表、本会の広報媒体（入賞作品集やホームページ等）への露出や作品展示などの広報活動および諸事業活動で公表・使用することがあります。上記および、法令等により開示を求められた場合を除き、承諾なくコンクール関係者以外の第三者に個人情報を提供することはありません。
(10) 作品を応募することによって、上記の個人情報の使用に承諾したものとします。
(11) 入賞通知後でも、当該入賞作品がすでに発表済みやオリジナルでない作品と判明した場合、応募規則への違反や、虚偽の報告が判明した場合は受賞を取り消します。

6. 締切日

令和3年9月30日（木）※必着

7. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予選審査を行い、各部門各部門ごとに点数を全国コンクールに推薦します。
(2) 全国コンクール入賞作品（優秀賞除く）以外の作品を対象に、山形県コンクール審査を行い、県段階の入賞作品を決定します。

8. 審査員

【全国コンクール】

審査委員長	中村 靖彦 氏（東京農業大学客員教授）
作文部門	設案 敬一 氏（(公社)全国学校図書館協議会理事長） 竹村 和子 氏（(公社)全国学校図書館協議会常務理事・事務局長） 堀米 薫 氏（児童文学作家、(一社)日本児童文芸家協会理事） 真鍋 和子 氏（児童文学作家、(一社)日本児童文学者協会監事）
図画部門	岡田 円治 氏（元株式会社NHKアート代表取締役社長、日本美術家連盟準会員） 岡村 泰成 氏（美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟会員） 小柳津須看枝 氏（日本美術家連盟会員） 西巻 茅子 氏（絵本作家）

【山形県コンクール】

県教育庁および小・中学校教員（作文部門5名、図画部門3名）

9. 審査基準

別添審査基準（作文部門4ページ、図画部門5ページ）による。

10. 賞

【全国コンクール】

- (1) 内閣総理大臣賞 作文・図画部門各1名———計2名
賞状と副賞（記念盾及びお米券、記念品）
(2) 文部科学大臣賞 各部門各部門ごとに1名———計6名
賞状と副賞（お米券および記念品）
(3) 農林水産大臣賞 各部門各部門ごとに1名———計6名
賞状と副賞（お米券および記念品）
(4) 全国農業協同組合中央会長賞 各部門各部門ごとに1名———計6名
賞状と副賞（お米券及び記念品）
(5) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに15名———計90名
賞状と副賞（記念品）
(6) 学 校 奨 励 賞 内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣
各賞受賞者所属校 計14校
賞状

【山形県コンクール】

- (1) 山形県知事賞 各部門各部門ごとに1名———計6名
賞状と副賞
(2) 山形県農業協同組合中央会長賞 各部門各部門ごとに1名———計6名
賞状と副賞
(3) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに5名———計30名
賞状と副賞
(4) 学 校 奨 励 賞 各部門各部門ごとに1校———計4校
賞状と副賞

11. 入賞発表・表彰式（作文・図画部門共通）

【全国コンクール】

- (1) 入賞発表 令和3年12月上旬
(2) 表 彰 式 令和4年1月8日（土）（入賞校、入賞者宛通知します。）
【山形県コンクール】
(1) 入賞発表 令和4年1月下旬（予定）
(2) 表 彰 式 令和4年2月中旬（予定）（入賞校、入賞者宛通知します。）
（県表彰式は、情勢に応じ、オンラインでの開催または中止の場合もあります。）

12. 主催

農業協同組合/都道府県農業協同組合中央会/全国農業協同組合中央会

13. 受付窓口および問合せ先

- (1) 県内の各J Aを受付窓口とします。
(2) 県段階は次にお問い合わせください。

〒990-0042
山形市七日町三丁目1番16号
山形県農業協同組合中央会（J A山形中央会）
総務部「作文・図画コンクール」係
（担当：長峯・阿部（公））
TEL：023-634-8111 FAX：023-633-1754

第 46 回

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査経過の概要

■応 募 数

作文：244点				
図画：657点	合計	901点		
区分	1 部	2 部	3 部	計
作文部門	59点	107点	78点	244点
図画部門	382点	241点	34点	657点

■審 査

- (1) 県予選審査期日
作文部門 令和3年10月21日(木)
図画部門 令和3年10月19日(火)
(2) 全国コンクール審査期日
作文部門 令和3年11月19日(金)
図画部門 令和3年11月16日(火)
(3) 県コンクール審査期日
作文部門 令和4年1月11日(火)
図画部門 令和4年1月18日(火)

■審査委員

【県コンクール】

作文部門（5名）

審査委員長	佐藤 昌彦（山形市立金井小学校 校長）
	笹原美百紀（天童市立第四中学校 校長）
	井上麻美子（山形大学附属小学校 教諭）
	海谷奈美紀（山辺町立山辺小学校 教諭）
	栗原 直子（中山町立中山中学校 教諭）

図画部門（3名）

審査委員長	建部 敦（大江町立左沢小学校 校長）
	笹原 聡（村山市立楯岡中学校 校長）
	芦野 繁樹（山形大学附属小学校 教諭）

■審査結果

- (1) 県コンクール
・山形県知事賞 作文部門3名／図画部門3名
・山形県農業協同組合中央会会長賞 作文部門3名／図画部門3名
・優 秀 賞 作文部門15名／図画部門15名
・学 校 奨 励 賞 作文部門2校／図画部門2校
(2) 全国コンクール（県内入賞者(校)数）
・文部科学大臣賞 作文部門1名
・優 秀 賞 作文部門2名／図画部門2名
・学 校 奨 励 賞 作文部門1校

年 度	部 門	1 部	2 部	3 部	合 計
平成 15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056
18 (第31回)	作文 図画	33 429	217 499	227 29	477 957
19 (第32回)	作文 図画	44 488	117 418	225 27	386 933
20 (第33回)	作文 図画	58 550	84 412	231 27	373 989
21 (第34回)	作文 図画	77 521	95 376	235 26	407 923
22 (第35回)	作文 図画	68 531	151 308	196 67	415 906
23 (第36回)	作文 図画	56 531	66 290	266 32	388 853
24 (第37回)	作文 図画	51 424	61 309	211 36	323 769
25 (第38回)	作文 図画	56 450	83 372	150 19	289 841
26 (第39回)	作文 図画	95 353	134 382	150 19	379 754
27 (第40回)	作文 図画	122 353	167 370	178 45	467 768
28 (第41回)	作文 図画	124 464	165 361	121 64	410 889
29 (第42回)	作文 図画	133 500	161 344	86 48	380 892
30 (第43回)	作文 図画	86 462	136 349	94 48	316 859
31 (第44回)	作文 図画	122 531	147 400	123 39	392 970
令和 2 (第45回)	コロナ禍のため中止				
3 (第46回)	作文 図画	59 382	107 241	78 34	244 657